令和3年度　高専高度化推進経費・学校改善事業　（テーマ：d. 社会連携・地域貢献活動の取組）

地域生涯学習プラットフォームの本格運用と成果の可視化

徳山工業高等専門学校

●実施概要

現　状	R2より，「地域生涯学習プラットフォーム」への全教員の登録と公開により，全校をあげた地域生涯学習を展開している．R2はコロナ禍で，ICT技術の活用による高専らしい取組み（リモート，オンデマンド）を行った．学科ごとにロボコン，コンピュータ，防災，デザインなどの分野で，ICTを活用した取組みがある．
目　的	地域貢献活動への取組を教員間，学科間でばらつきをなくし，すべての教員が地域社会に対し，社会貢献できる体制を構築する．そのため，実施プログラムごとのアクティブ時間（提案する概念）を積み上げ，個人，学科単位（5000人・人・時間），全校（20000人・人・時間）の目標設定を行い，年度単位で成果を検証する．

地域生涯学習プラットフォーム（R2～）

全教員が講座を登録 → 地域▼学校から依頼 → 高専から教員を派遣 → 講座の実施 → アクティブ時間集計

- 40以上
- 受入側の負担なし
- 1講座につき1万円の助成
- 学科単位で集計

アクティブ時間の集計（R3試行）

	講師等		受講者		実施時間		アクティブ時間
講座単位	教員6 学生6 ⇒12人	×	児童30 教員2 ⇒32人	×	1校時 1時限 ⇒1時間	=	384 人・人・時間
個　人	1人	×	32人	×	1時間	=	1回,32時間
学科ごと	ある学科で12講座実施ならば約**5,000人・人・時間**						
高専全体	4学科の合計ならば**20,000人・人・時間**						

成果指標（数値目標）	総アクティブ時間:　アクティブ時間の総合計の目標　**20,000人・人・時間** 学科ごとの目標アクティブ時間：　学科単位で見たアクティブ時間の合計　目標　**5,000人・人・時間/学科** 個人のアクティブ時間等の目標：　1回以上　**1人・人・時間/個人**
成果指標の考え方	**関与する人数と時間数（アクティブ時間）**を成果指標として設定する． アクティブ時間の概念として，(講師等の教員・学生)×(受講する児童・生徒・受入側教員)×(受講時間) 教員等個人のアクティブ時間：1人×(受講する児童・生徒・受入側教員)×(受講時間))